

JCAS 総会資料

活動報告（2008年11月～2009年10月）

1. 地域研究コンソーシアムの加盟状況

（1）加盟組織数

- ・昨年度11月時点での81組織から、現在87組織となった。

資料1：地域研究コンソーシアム加盟組織一覧

（2）理事・運営委員

- ・2009年度4月から第三期体制（2008-2009年度）が継続。

＊2009/10にジャパン・プラットフォームからの運営委員が交替（桑名恵→鈴木光一）

資料2：理事会および運営委員会の構成

- ・理事会、運営委員会、各作業部会・研究会の開催

昨年11月9日から本年11月6日までの間に、理事会1回、メール理事会5回、運営委員会2回を開催した。次世代育成作業部会・各研究会もそれぞれ3～4回の会合をおこなった。この他にメイリングリストを通じた意見交換が随時活発に実施されている。

資料3：理事会・運営委員会・各作業部会・研究会の開催状況

2. 各活動分野の進捗状況と課題

1. Webやメールマガジンなどによる情報交流・発信

1.1. 地域研究コンソーシアム・ホームページ（広報部会）

（1）新HPへの移行

2009年4月1日から、新HPに移行した。新HPでは、地域研究関連情報のさまざまな検索が可能となっている。地域研究コンソーシアムが主体となる活動についても情報量を大幅に増やした。

（2）情報入力担当者の登録依頼

新HPへの情報入力については、JCAS事務局での手作業だけでは不十分であるため、各加盟組織から1～2名の情報登録担当者を決めてもらい、加盟機関の協力による情報集積を図っている。しかし、登録のあった情報登録担当者は16名（14機関）にすぎない（10月27日現在）。多くの機関からの登録をお願いしたい。

（3）利用者カウンターを設置

新HP利用者の動向をモニタリングするため、2009年9月に各ページにカウンターを設置し、アクセス数（利用者数）を計測している。ちなみに、2009年9月26日から10月26日までの一ヶ月間の、のべアクセス数は以下の通りである。参考までに、括弧（）内に9月7日～30日の、のべアクセス数を表示する。

ページ名	アクセス数 (9月7日～30日)
トップページ	1076 (584)
地域研究イベント情報	99 (28)
地域研究公募情報	104 (0)
地域研究出版物情報	40 (45)
地域研究コンソーシアムについて	194 (73)

1.2. メールマガジンの発行（事務局）

地域研究の最前線を速報する媒体として立ち上げられたメールマガジンは、2008年12月から2009年11月6日までの間に45回発行され、地域研究コンソーシアム関連行事の告知や地域研究コンソーシアムが広報協力を行う企画などの広報に広く利用された。発信は毎週定期的に行われている。

1.3. 後援、協力、広報協力、協賛などの実施（運営委員会、事務局）

加盟組織が主催するシンポジウムや研究会、公募などについて、申請があった場合に運営委員会で検討し、後援、広報協力、協賛を実施した。この1年間に計137件（広報協力：113件 公募：24件）を実施した。

2. 地域研究の成果公開、発信機能（『地域研究』、ニューズレターなど）

2.1. 和文雑誌作業部会

(1) 2009年3月『地域研究』第9巻第1号刊行

(2) 第10巻第1号（2009年12月刊行予定）および同第2号（2010年3月刊行予定）を準備中

『地域研究』第9巻第1号

アフリカに焦点をあてて、アフリカ内部の動きとアフリカへの眼差しの両面からその実情に迫る。

総特集 アフリカー希望の大陸のゆくえ

（総特集にあたって 内と外からみたアフリカとアフリカ研究の現在(遠藤貢)；

座談会 アフリカの変容—都市・農村から国家まで)；

特集1 変貌するアフリカ

アフリカ独立五〇年を考える—アフリカ現代史の書きかえに向けて (川端正久)

「移行期」のスーダン政治—南北和平・民主化・ダルフル危機 (栗田禎子)

暴力化した「キクユ嫌い」—ケニア2007年総選挙後の混乱と複数政党制政治 (津田みわ)

ジンバブウェのクレプトクラシー体制とそのメカニズム—2000—08年 (井上一明)

ナイジェリア都市部における移民と王制—ポスト植民地時代のアフリカにおける伝統的権威者の象徴的価値 (松本尚之)；

特集2 アフリカをみる世界の目

アフリカの紛争解決に向けて—国際社会の関与とアポリア (武内進一)

フランスからみたアフリカーサルコジ大統領のダカールでの演説より (加茂省三)

マラウイの対中国交樹立—なぜ中国を選ぶのか（川島真）
 ウガンダの分権化と貧困削減—ドナーの視座の制約（笹岡雄一）
 アフリカ問題と日本（片岡貞治）；

特集3 日本に息づくアフリカ

中古自動車業を生きる滞日アフリカ人の生活動態—カメルーン人の生活戦略と母国の政治社会状況（和崎春日）

盛り場「六本木」におけるアフリカ出身就労者の生活実践—快適な空間のためのコミュニティへの道のり（川田薫）

結婚、移住してガーナを生きる日本の女性たち（若林チヒロ）；

付表 アフリカ重要事項年表／アフリカ基本統計データ

2.2. 地域研究コンソーシアム・ニューズレター(広報部会)

2009年10月に第7号のニューズレターを発行した。第7号の発行は本来ならば2009年3月のはずであったが担当者の不手際で大幅に発行が遅れてしまった。

3. 対象地域を超えた、あるいは組織形態を超えた交流活動（年次集会など）

3.1. 年次集会シンポジウム

・地域研究コンソーシアム加盟組織が一堂に会する唯一の機会である年次集会を活用して、加盟組織が共通して持つ課題に関するシンポジウムを開催している。2008年度はシンポジウム「地域研究の実践的活用—開発・災害・医療の現場から」と題して11月8日にシンポジウムを実施した。

3.2. 次世代支援プログラム（次世代育成作業部会）

次世代の地域研究者への支援を目的として、地域研究に必要なツールの提供や、次世代の地域研究者のイニシアティブによるワークショップ等の開催を支援するプログラムである。公募により、以下の2つのプログラムを実施した。

（1）次世代ワークショップ

・2008年度採択企画

実施日	企画題目	企画責任者
2008年11月9-10日	「南アジアの手工芸開発—「布」からみる地域社会の変動」	金谷美和（国立民族学博物館）
2009年1月10日	「人文学的アプローチによるポーランドの地域主義研究」	小椋彩（早稲田大学）
2009年1月31日	「地域秩序の形成と流動化—中央アジアのいまを探る」	小沼孝博（学習院大学東洋文化研究所）

・2009年度採択企画

公募期間	2009年6月15日～8月14日	
公募総数	4件	
採択企画		
2010年1月9日（土）・東	「東欧地域研究の現在、そして未来への	奥彩子（大阪大学・

京大学駒場キャンパス 18 号館ホール	展望—国境・学問領域をこえた総合的ア プローチ—	特任研究員)
------------------------	-----------------------------	--------

(2) フィールドワーカーのためのデジタル映像ワークショップ

会場	東北大学東北アジア研究センター	
講師：	齋藤秀一氏（齋藤秀一写真事務所）、高倉浩樹氏（東北大学）	
2008年度	実施期間：2009年2月9（月）、10（火）、12（木）の 3日間（計16時間）	参加者数10名／申込者数：14名
内容	（a）カメラの基本について（構え方、絞りとシャッタースピード、露出）；（b）デジタル カメラについて（画素数と記録形式、色空間、光の方向性、適正露出、色温度）；（c）画面 構成について（フレーミング）；（d）画像処理ソフトの使い方；（e）写真の講評会	
2009年度	実施機関：2009年9月10日、18日、25日の3日 間（午前10時～16時）	総参加者数14名／申込者数：17名
内容	第一回 フィールドワークと写真 人類学調査と写真／写真の読み方と作り方—表現方法：組写真と映像 第二回 カメラの基本とデジタルカメラ カメラの構え方・露出とヒストグラム・ホワイトバランスなど／資料の文書・物などの 撮影方法 第三回 撮影実習と講評会：大学付近での撮影実習／講評会・質疑応答	

4. 社会連携の推進（社会連携研究会）

・地域研究の蓄積が広く社会で活用される方策を探ることを目的に設置されている。多様な加盟組織が持つ知識や資料を有効利用し、世界の諸地域で活動する市民社会を発展させるため、教育・研究機関と NGO/NPO との人材交流を推進する方策を検討する研究会などを行ってきた。今年度は共生ワークショップ3回、上映会フォーラム1回を開催した。

資料3：理事会・運営委員会・各作業部会・研究会の開催状況

<p>シンポジウム</p> <p>「開かれた社会への支援をめざして： インドネシア・アチェ地震津波支援に対する学際的評価」（2008年12月28日） ＜プログラム＞</p> <p>開会のことば（中村安秀：大阪大学大学院人間科学研究科 教授）</p> <p>第1部 講演</p> <p>2004年スマトラ沖地震津波とアチェ紛争 西 芳実（東京大学大学院総合文化研究科 助教） アチェ人道支援学際調査報告 中村安秀（大阪大学大学院人間科学研究科 教授）</p> <p>第2部 パネルディスカッション</p> <p>ファシリテーター 原田勝広（日本経済新聞社 編集委員）</p> <p>パネリスト</p> <p>田中康夫（日本赤十字社 本社 事業局国際部 開発協力課長） 池上清子（国連人口基金 東京事務所長） 山本博之（京都大学地域研究統合情報センター 准教授） 山本理夏（NPO法人ピース ウィンズ・ジャパン 海外事業部チーフ）</p>
--

閉会のことば （木村秀雄：東京大学大学院総合文化研究科 教授）

共生ワークショップ

- 第 8 回「ペルー地震被災者支援モニタリング調査・報告会」（2008 年 12 月 4 日）
＜テーマ：心理社会的ケア＞
- 第 9 回「中国四川大地震と心理社会的ケアについて」（2009 年 7 月 27 日）
- 第 11 回「心理社会的ケアと青少年活動の違いについて」、「心理社会的ケアの評価手法について」（2009 年 10 月 20 日）
＜テーマ：ジェンダー＞
- 第 10 回「ジェンダーに配慮した支援戦略」（2009 年 10 月 5 日）

難民映画上映会 in 京都 & 神戸

- 2009 年 6 月 26-28 日@京都
「ビルマ、パゴダ」「ガーダ パレスチナの詩」「バックドロップクルディスタン」
- 2009 年 6 月 15-18 日@神戸
「大地に響く歌」「ガーダ パレスチナ」「Invisible Children」「難民 故郷をはなれて」

*以上はすべて、世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業「人道支援に対する地域研究からの国際協力と評価」などとの共催

5. 地域研究資料・情報の共有化、地域情報学の推進

5.1. 情報資源共有化研究会

各加盟組織が収集公開している史資料の効果的・効率的な共同利用の方策を検討することを目的として設置された。各加盟組織の史資料担当者を中心に、収集、整理、公開の状況について情報交換し、ネットワーク化に必要な方策および分担収集など効率的な資料収集の可能性について検討を行っている。この 1 年は、「地域研究における映像の保存と活用の可能性」を開催したほか、地域情報学研究会と共催で「地図情報共有化のために」という研究会を開催予定である。

5.2. 地域情報学研究会

地理情報システムや多言語情報処理など進展著しい情報学を取り入れて、地域研究に新たな可能性を拓くことを目的として設置された。様々な研究の事例を情報交換するとともに、情報学の応用に欠かせない実践的な講習会開催なども視野に入れて活動を行っている。この 1 年は、「時空間情報に着目した地域研究情報の創出：トピックマップ講習会」を開催したほか、地域情報学研究会と共催で「地図情報共有化のために」という研究会を開催予定である。

資料 3：理事会・運営委員会・各作業部会・研究会の開催状況

6. 地域研究方法論の確立（地域研究方法論研究会）

（1）研究組織の正式な立ち上げ

2008 年 11 月に研究組織を正式に立ち上げた。統括班のもとで個別のテーマに従って研究

を進める研究班を公募し、「実践的活用」班、「研究者の広がり」班、「手法としての映像」班、「地域の暗黙知」班、「文理接合」班などの研究班を置いた。

(2) ウェブサイトの立ち上げ

2009年5月に研究会ウェブサイト立ち上げた (<http://areastudies.jp/>)。研究会の案内を掲載し、巡回研究会(統括班研究会)での討論内容や参加者アンケート集計結果を含む活動内容を公開した。

(3) 巡回研究会(統括班研究会)の実施

地域研究に携わる国内の大学院研究科を訪問して、教育・研究の現場での地域研究方法論に関するニーズ調査を兼ねた研究会を開催した。会場校は公募した。会場によっては2巡目の研究会を行った。2巡目の研究会では、なるべく会場校参加者の関心にあわせて報告者を選ぶようにした。

これまでに以下の会場で巡回研究会を行った。

○2008年11月14日、東京大学

○2009年2月10日、早稲田大学

○2009年6月26日、上智大学

○2009年7月2日、東京大学(2巡目)

今年度はさらに以下の会場で巡回研究会を行うことを予定している。

○早稲田大学(2巡目、11月)、大阪大学(12月)、東北大学(2010年2月)

(4) 研究班による研究活動

各研究班によりそれぞれのテーマに従って研究が進められた。それらの活動のうち、以下の研究会は一般に公開して行われた。

○2009年7月18日、「研究者の広がり」班、「社会経験に根ざした研究を求めて：外交・教育・企業」(会場：立命館アジア太平洋大学)

○2009年9月26日、「実践的活用」班、「防災・復興・災害研究への総合的アプローチ：2009年西ジャワ震災の事例から」(会場：東京大学地震研究所)

今年度はさらに以下の研究会を一般公開で行うことを予定している。

○2009年11月25日、「実践的活用」班、「支援の現場と研究をつなぐ：2009年9月西スマトラ地震におけるジェンダー、コミュニティ、情報」(会場：東京大学)

○2009年11月27日、「研究者の広がり」班、「外交の現場における学術研究」(会場：東京大学)

資料3：理事会・運営委員会・各作業部会・研究会の開催状況

3. 来年度にむけて

(1) メルマガ配信数の増加・加盟組織の広報担当者登録の強化

(2) 次世代育成を強化するため、従来の部会主催企画以外に、公募企画を実施する。公募のあり方については今後の課題

(3) 運営委員会のなかでこれまでの年次集会部会を(イ)年次集会部会と(ロ)シンポジウム部会に分ける。年次集会部会は、総会を含めた全般企画を担当し、シンポジウム部会は年次集会時に行われるシンポジウムの企画を担当する。

(4) 地域研究賞創設についての検討を行う

●→今年度 JCAS幹事組織 *→今年度 新加入組織

	組 織 名 称
1	愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)
2	アジア政経学会(財)
3	アジア・バロメーター・プロジェクト
4	アメリカ学会
5	宇都宮大学大学院国際学研究科
6	NPO平和環境もやいネット
7	大阪経済法科大学アジア研究所
8	大阪大学グローバルコラボレーションセンター ●
9	大阪大学世界言語研究センター *
10	大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻
11	学習院大学東洋文化研究所
12	鹿児島大学大学院人文社会科学部地域政策科学専攻
13	鹿児島大学多島圏研究センター
14	九州大学アジア総合政策センター
15	九州大学韓国研究センター
16	九州大学熱帯農学研究センター
17	京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所
18	京都外国語大学国際言語平和研究所
19	京都グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
20	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
21	京都大学人文科学研究所人文学国際研究センター
22	京都大学地域研究統合情報センター ●
23	京都大学東南アジア研究所 ●
24	京都大学防災研究所
25	慶応義塾大学東アジア研究所
26	高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科
27	国際交流基金日本研究・知的交流部(独)
28	静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター *
29	島根県立大学北東アジア地域研究センター
30	ジャパン・プラットフォーム
31	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻
32	上智大学アジア人材養成研究センター
33	上智大学アジア文化研究所 ●
34	上智大学イベロアメリカ研究所
35	新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」 *

36	森林総合研究所 国際連携推進拠点(独)
37	世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業 「人道支援に対する地域研究からの国際協力と評価 ―被災社会との共生を実現する復興・開発をめざして―
38	筑波大学大学院人文社会科学部国際地域研究専攻
39	筑波大学北アフリカ研究センター *
40	東京外国語大学大学院地域文化研究科
41	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ●
42	東京外国語大学:史資料ハブ地域文化研究拠点
43	東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻
44	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻
45	東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター
46	東京大学東洋文化研究所
47	東京大学空間情報科学研究センター
48	同志社大学アメリカ研究所
49	同志社大学一神教学際研究センター
50	東南アジア学会
51	東北大学東北アジア研究センター ●
52	東洋大学アジア文化研究所
53	東洋文庫現代中国研究資料室(財)
54	特定非営利活動法人 アジア・アフリカ研究所 *
55	特定非営利活動法人 HANDS
56	鳥取大学乾燥地研究センター
57	富山大学極東地域研究センター
58	長崎大学熱帯医学研究所
59	長崎大学グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」
60	名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター
61	名古屋大学法政国際教育協力研究センター
62	名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科
63	新潟県立大学 *
64	日本アフリカ学会
65	日本カナダ学会
66	日本現代中国学会
67	日本スラブ東欧学会(The Japanese Society for Slavic and East European Studies)
68	日本大学国際関係学部国際関係研究所
69	日本大学生物資源科学部国際地域研究所
70	日本中東学会
71	日本熱帯生態学会
72	日本貿易振興機構 アジア経済研究所

73	日本ラテンアメリカ学会
74	人間文化研究機構国立民族学博物館 ●
75	人間文化研究機構総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点
76	一橋大学経済研究所
77	法政大学大学院国際文化研究科
78	北海道大学スラブ研究センター ●
79	宮城学院女子大学附属 キリスト教文化研究所
80	宮城学院女子大学国際文化学科
81	明治大学軍縮平和研究所
82	ユーラシア研究所
83	立教大学アジア地域研究所
84	立命館アジア太平洋大学
85	琉球大学熱帯生物圏研究センター
86	早稲田大学アジア研究機構
87	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻

●理事会

氏名	所属
家田 修 (会長)	北海道大学スラブ研究センター
田中耕司 (副会長)	京都大学地域研究統合情報センター
岩下明裕	北海道大学スラブ研究センター
瀬川昌久	東北大学東北アジア研究センター
栗原浩英	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
水野広祐	京都大学東南アジア研究所
栗本英世	大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻
寺田勇文	上智大学アジア文化研究所
毛里和子	早稲田大学アジア研究機構
福田安志	日本貿易振興機構アジア経済研究所・図書館長
油井大三郎	アメリカ学会
森 明子	人間文化研究機構国立民族学博物館

●運営委員会

氏名	所属
高倉浩樹 (委員長)	東北大学東北アジア研究センター
村上勇介 (事務局長)	京都大学地域研究統合情報センター
赤嶺 淳 (副委員長)	名古屋市立大学大学院人間文化研究科
家田 修	北海道大学スラブ研究センター
野町素己	北海道大学スラブ研究センター
上野稔弘	東北大学東北アジア研究センター
黒木英充	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
西井涼子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
寺田勇文	上智大学アジア文化研究所
福武慎太郎	上智大学アジア文化研究所
堀坂浩太郎	上智大学イベロアメリカ研究所
石川 登	京都大学東南アジア研究所
北村 由美	京都大学東南アジア研究所
小森 宏美	京都大学地域研究統合情報センター
原正一郎	京都大学地域研究統合情報センター
林 行夫	京都大学地域研究統合情報センター
柳澤雅之	京都大学地域研究統合情報センター
山本博之	京都大学地域研究統合情報センター
阿部健一	人間文化研究機構総合地球環境学研究所
丹羽典生	人間文化研究機構国立民族学博物館
三尾 稔	人間文化研究機構国立民族学博物館
宮原 暁	大阪大学グローバルコラボレーションセンター
石井正子	大阪大学グローバルコラボレーションセンター
鈴木 光一	ジャパン・プラットフォーム

●理事会

2009年4月23日	サピアタワー 京都大学東京事務所
------------	------------------

●運営委員会

2009年3月9日	サピアタワー 京都大学東京事務所
2009年6月5日	名古屋市立大学本部棟 第一会議室

●社会連携研究会

2008年12月4日	ジェンダー共生ワークショップ「第8回ペルー地震被災者支援モニタリング調査・報告会」
2008年12月28日	シンポジウム「開かれた社会への支援をめざして：インドネシア・アチェ地震津波支援に対する学際的評価」
2009年6月15-18日	難民映画上映会in京都&神戸「ビルマ、パゴダ」「ガーダ パレスチナの詩」「バックドロップクルディスタン」
2009年6月26-28日	難民映画上映会in京都&神戸「大地に響く歌」「ガーダ パレスチナ」「Invisible Children」「難民 故郷をはなれて」
2009年7月27日	ジェンダー共生ワークショップ「第9回中国四川大地震と心理社会的ケアについて」
2009年10月5日	ジェンダー共生ワークショップ「第10回ジェンダーに配慮した支援戦略」
2009年10月20日	ジェンダー共生ワークショップ「第11回心理社会的ケアと青少年活動の違いについて」

●情報資源共有化研究会

2008年12月6日	「地域研究における映像の保存と活用の可能性」
2009年11月8日	研究集会「地図情報共有化のために」

●地域情報学研究会

2009年6月6日	時空間情報に着目した地域研究情報の創出：トピックマップ講習会
2009年11月8日	研究集会「地図情報共有化のために」

●地域研究方法論研究会

2008年11月14日	第1回地域研究方法論研究会
2009年2月10日	第2回地域研究方法論研究会
2009年6月26日	第3回地域研究方法論研究会
2009年7月2日	第4回地域研究方法論研究会
2009年7月18日	地域研究方法論研究会の「研究者の広がり」班
2009年9月26日	地域研究方法論研究会の「実践的活用」班

●将来計画WG

2009年2月4日	第二回会合
2009年3月9日	第三回会合

●次世代育成部会
「地域研究次世代ワークショップ」

企画名	「南アジアの手工芸開発——「布」からみる地域社会の変動」
開催日時	2008年11月9日～10日
主催	地域研究コンソーシアム
共催	国立民族学博物館
企画責任者	金谷 美和

企画名	人文学的アプローチによるポーランドの地域主義研究
開催日時	2009年1月10日
主催	地域研究コンソーシアム
共催	東京大学文学部
企画責任者	小椋 彩

企画名	地域秩序の形成と流動化—中央アジアの“いま”を探る—
開催日時	2009年1月31日
主催	地域研究コンソーシアム
共催	イスラーム地域研究東京大学拠点
後援	学習院大学東洋文化研究所
後援	北海道大学スラブ研究センター
後援	日本中央アジア学会
企画責任者	小沼 孝博

「フィールドワーカーのためのデジタル映像ワークショップ」

開催日時	2009年2月9日、10日、12日および2009年9月10日、18日、25日
主催	地域研究コンソーシアム
共催	東北大学東北アジア研究センター
企画責任者	高倉 浩樹